

有機肥料を用いた春播きブロッコリーの栽培法

福島県農業試験場相馬支場
平成17年度試験成績概要

- 1 部門名 野菜－ブロッコリー－施肥法
分類コード 03－25－13000000
- 2 担当者 水野由美子・菅田充・中山秀貴・大和田正幸
- 3 要 旨

近年、野菜の有機栽培への関心が高まっており、ブロッコリー栽培では有機肥料の施肥法の確立が求められている。そこで、現在市販されている有機肥料(ともだち643号)の肥効について、施肥量、追肥回数の中で検討した。

(1)有機肥料を10a当たり窒素成分総量で20kg、25kg、30kgとした区を設け、春播きブロッコリーを栽培した。基肥は14kg、19kg、24kgとし、追肥は3kgずつ2回行った。その結果、各区の生育は同等で、出蕾期、平均収穫日はほぼ同日、収量に大きな違いは認められなかった。なお、各区の収量は、化学肥料20kgの場合とほぼ同程度であった。

(2)有機肥料を10a当たり窒素成分で20kg全量基肥とする区と、追肥1回(3kg/10a)および追肥2回(3kg/10a×2)に分施する区を設け、春播きブロッコリーを栽培した。その結果、各区の生育は同等で、出蕾期は、追肥1回および2回の区が若干早かったが、平均収穫日はほぼ同日であった。収量に大きな違いは認められず、肥効の緩やかな有機肥料では全量基肥で栽培しても問題ないものと思われた。

以上のことから、春播きブロッコリー栽培において、有機肥料(ともだち643号)を使用した場合、10a当たり窒素成分で20kgより増肥してもその効果は小さく、また、全量基肥による栽培が十分可能であると考えられた。

- 4 その他の資料など